

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
5
2006



患者様から学び、患者様に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

最先端システムとチームワークで、良質な臨床検査技術を提供する

診療支援部 村瀬光春 部長



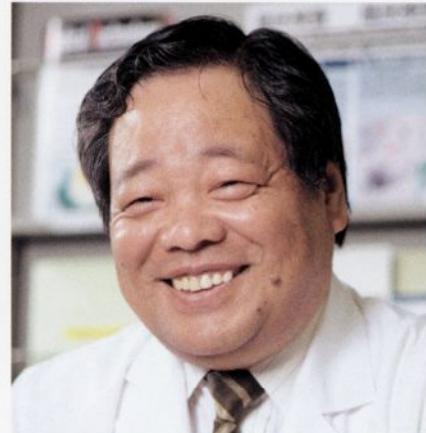
全国でも数少ない検体検査搬送システム

検査部は病気の診断や治療に必要な科学的データを提供するための臨床検査を集中的に行います。医師が治療をする前の診断や手術前に必要な情報を得るために、又治療中の薬が効いているかなどを調べるために必要不可欠な部門です。臨床検査は患者様を直接検査する生体検査と、患者様の血液や尿などを検査する検体検査に分かれます。検査内容は医師の問診などを元に患者様に対して、どのような検査が必要かという情報が、医師からコンピュータで検査部に依頼され、患者様が受付に来られた時には迅速に対応されます。特に、外来患者様の検体検査は採

血から30分以内で殆どの結果が出ます。中央採血室で採血された検体は、全国でも数少ない検体検査搬送システムに乗せられ、自動生化学分析装置、免疫測定装置などを使って直ちに検査が実施され、結果はコンピュータにて医師に報告されます。

検体検査では肝機能検査、腎機能検査、脂質・糖代謝検査などの生化学検査、又貧血、白血球の増減などの血液一般検査、感染症、自己抗体、血漿蛋白、腫瘍マーカー、妊娠反応、アレルギーなどの免疫血清検査を行っています。自動尿測定装置を導入し、糖、蛋白、尿沈渣などの尿検査、便潜血などの一般検査を実

施しています。血液形態検査では、骨髄像検査や自動血球計数装置では分類できない異常細胞を顕微鏡で判定しています。感染症検査では、感染の原因となる細菌や真菌の検出と、抗生物質などの薬剤感受性検査を行っています。遺伝子検査では、ウイルス遺伝子、微生物遺伝子、



PROFILE

むらせみつるはる◎1967年愛媛県立衛生検査技師養成所卒業。1976年愛媛大学附属病院検査部へ。1983年検査部臨床検査技師長、2005年から診療支援部部長を兼任。数種の臨床病理技術士など、免許・資格を数多く取得。趣味は最近できていない旅行で、もう一度行ってみたい国はスイス。



清潔で広々とした中央採血室

白血病・リンパ腫遺伝子、糖尿病関連遺伝子などの検査を行っています。生体検査の生理機能検査では、心電図や頸動脈波、心臓エコーなどの超音波検査、脳波検査、呼吸機能検査、サーモグラフィ検査などを行っています。検査は365日、24時間、診療時間外でもスタッフが交代で行っています。

検査部には病院のすべての診療科から、毎日600~900人を超える多くの臨床検査の依頼があります。どの患者様にも、安心して検査を受けて頂けるよう、検査部の全スタッフは臨床検査に関する専門の教育を受け、認定試験を取得した臨床検査技師が、正確な検査結果を迅速に報告しています。また、スタッフ一人ひとりがチーム医療の一員として、チームワークを大切に検査業務を遂行することが、私たちの理念であり目標です。検査法や測定機器は年々新しい技術が導入され、著しく進歩しています。私たちは教官、技術職員とも、意欲的に新しい検査法の開発や改良などの研究課題にも積極的に取り組んでいます。

重度の肝疾患に、生体肝移植という治療法で立ち向かう

器官制御外科学(肝・胆・膵・移植外科) 中村太郎 医師



PROFILE

なかむらたろう ◎愛媛大学医学部・器官制御外科学講師。1993年愛媛大学医学部卒業。医学博士。肝疾患、肝移植治療を専門に活躍。学生時代はバレーボール部に所属。たまの休日は2人の子供と遊ぶことが楽しみ。

私の専門は肝臓外科、特に肝移植です。自身の肝臓では生命を維持できないような、重度の肝疾患を持っている方において、生体肝移植という治療を行っています。日本における肝移植の歴史は浅く、1例目は1989年。愛媛大学では1例目が2001年9月に行われ、現在まで20例の移植手術を行いました。今年は半期で既に5例の移植を行いましたし、移植を待っている患者様も多くいます。2004年の1月から保険の適応が拡大されたことも増加の理由の一つです。例えば、成人の重度の肝硬変や肝細胞がん、劇症肝炎などが保険適応になりました。肝移植には、大きく生体肝移植と脳死肝移植があります。愛媛大学で行っている生体肝移植は、身内の方から肝臓の一部を提供していただいている。手術の安全性が高まる中、肝移

植は移植後の管理も重要です。術後も様々なことに配慮しながら、治療しなければいけません。私たちは医師をはじめ、看護師、ICU、手術室、検査部、薬剤部など、治療に係るスタッフ全員が一丸となって、全国に誇れるチームワークで治療にあたっています。生体肝移植は保険適応になって、一般的になりつつあり、今後普及していきます。今後、更に肝移植の治療を定着させることができることが私の目標です。まだまだ、重度の肝疾患の方はたくさんいらっしゃいます。しかし、一般の医療機関で肝疾患の治療に肝移植を当てはめる医師は、少ないと思います。患者様の中にはそういった治療ができるとさえ知らない方も多いでしょう。大変な治療ではありますが、肝移植という治療法があることを多くの方に知っていただき、私どもにご相談、ご紹介ください。

血管から健康長寿を目指し、予防医学の役割を担うセンターへ

加齢制御医学(老年内科) 伊賀瀬 道也 医師



PROFILE

いがせみちや ◎愛媛大学医学部・加齢制御医学講師。1991年愛媛大学医学部卒業。医学博士。大学院時代から研究を続けている高血圧(特にレニン・アンジオテンシン系)、動脈硬化を専門に活躍。リフレッシュ法は水泳。1回1km、週に2~3日は泳ぐ。

私は老年内科で循環器を専門としています。高齢者になられると、心臓や血圧の疾患を、手術をして治療をする方は少なく、薬を内服する治療が中心です。ただ、高齢者の方は血圧、糖尿病、腰痛、膝痛など、多くの疾患を持っている方が多く、当科で治療できる疾患以外は専門医を紹介しています。複数の病気を抱えている患者様は、数多くの薬を一度に飲んでいるため、当科で薬の飲み合わせの確認をするなど、総合内科的な役割を担っています。病気になった方を治療するだけでなく、病気にならないための指導を行う予防医学的な役割を果たしたいと、今年2月に抗加齢センターをオープンしました。当センターでは動脈硬化を総合的に判断します。「人は血管とともに老いる」という、古くからの言葉があるくらい、ご自身の年齢と血管年齢に

は差があります。血管年齢を知った上で、健康長寿を達成していただくために必要な指導をさせていただくことが目的です。検査内容は頸動脈エコー、血液検査、頭部MRI・MRA、腹部・大腿部CT、骨密度、認知機能検査などを行っています。非常に多くの方に興味を持っていただき、2月のスタートから、既に130名を超える方に検査を受けていただきました。更に年内は予約で埋まってしまっている状態です。実際に利用いただいた方に、医師に聞けなかったことが聞けて良かったという声もありました。中には、検査内容にある脳ドックで動脈瘤が見つかり、すぐに検査、治療ができたという方もいらっしゃいます。

私のモットーは「一期一会」。検査に来ていただいたお客様一人ひとりが、行って良かったと思っていただけるセンターを目指します。

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設のご紹介

お気軽にご相談ください

地域と連携して実力のある医療人を育てます。ぜひ、ご利用ください。

総合臨床研修センター



平成14年度から総合臨床研修センターが臨床研修の窓口として設置され、充実した臨床研修の実践に携わっています。先端医学、地域医療の担い手を育成する場という役割であり、患者様の立場に立てる医療人の養成を目標とし、1)高いレベルの研修内容、2)研修医とともに創るプログラム、3)病院・地域が全員参加・支援する研修システムなどが特色です。学会発表や学外研修の機会を研修医にできるだけ多く与え、地域、国

内外に視野を持てる幅広い医師の養成（愛媛で育ち、世界に羽ばたく医療の創造）にも常に勤めています。今春39名が愛媛大学の研修プログラム（通称：愛プログラム）にて新臨床研修制度が修了し、現在も60名が臨床研修に携わっています。平成18年度より歯科医師も新臨床研修制度が開始され、9名が研修（デンタル愛プログラム）を行っています。さらにコメディカルや

事務職員などの研修の窓口としてもご利用いただきつつあります。



総合臨床研修センター

センター長：高田清式 問合せ先（総務課臨床研修チーム）
TEL: 089-960-5098 FAX: 089-960-5131 E-mail: kenshu@m.ehime-u.ac.jp

患者様のニーズにお応えします。お気軽にご相談ください。

医療サービス室

4月から新設された医療サービス室です。私たちは、患者様に対するサービス向上のため、日々活動しています。本院に対するご意見ご要望等について、いつでもお声をかけていただければと思います。地域の皆様に信頼され愛される病院を目指して、スタッフ一同努力しますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

患者様の笑顔が私たちの元気の源です。



医療サービス室
TEL: 089-960-5181
FAX: 089-960-5134

ボランティア募集中

本院では、患者様のご案内や受付のお手伝いや院内移動の補助など、患者様の立場から少しでも快適にご利用いただけるように、ボランティアの方々のご協力をいただいています。本院が皆様の健康と幸せを支援する地域資源となれますよう、ボランティアの皆様と共に努力して参ります。皆様のご応募をお待ちしています。尚、このたび本院に2名の医療ボランティアコーディネーターが誕生し、ボランティアの活動支援に取り組むこととなりました。どうかよろしくお願いいたします。

医療サービス室（ボランティア担当）
TEL: 089-960-5099
FAX: 089-960-5134



野村さん 寺岡さん

平成18年6月1日より キャンパス内が禁煙に！

喫煙は肺がん、喉頭がんをはじめとする多くのがんや循環器疾患、呼吸器疾患、妊娠合併症など多くの病気を引き起こします。また、受動喫煙によって家族や周囲の人々にまで重大な健康被害を及ぼします。わが国でも「健康増進法」が制定され、多くの人々が利用する施設においては受動喫煙の防止策が義務付けられています。

愛媛大学医学部及び附属病院においても、タバコ販売の中止、建物内禁煙、禁煙外来の設置などの対策を行ってきましたが、ひとの命を守り、健康をサポートするという大学病院の社会的使命から、6月1日より重信キャンパス内全面禁煙を実施いたしました。重信キャンパスに立ち入られる皆様方のご協力をお願いいたします。

なお、それに伴い6月1日より禁煙外来を充実させ、月曜から金曜まで毎日行っております。禁煙をご希望の患者様がおられましたらお気軽にご相談ください。

禁煙外来問合せ先

TEL: 089-960-5540

編集後記

暑い日が続いますが、皆さんお元気ですか。病院広報誌INVITATIONもおかげさまで1歳を迎ました。愛大病院もこの1年、医療サービスの向上を目指した各種外来やセンターの設置、キャンパス内禁煙など大学病院の社会的使命達成のため努力してまいりました。また6月には近隣医師会の先生方をお招きして、初めてのオープンハウス（病院見学会）を行いました。院内見学のあと先生方から忌憚のないご意見も賜り、現在改善中です。病院のオープンハウスは引き続き、一般市民や高校生等を対象に逐次開催予定です。開かれた病院に爽やかな風が吹き込むように、数多くの皆様のご参加をお待ちしています。

○愛媛大学医学部附属病院広報委員会

委員長 檜垣實男

○表紙の人

薬剤師 井門敬子

—服薬指導中（病棟にて）—



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 Tel.089-964-5111 (代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>